

7 管内の堆肥を活用したトマトの低コスト施肥体系

情報提供：吾妻農業事務所普及指導課

活動の背景

吾妻農業事務所管内は、畜産と野菜の生産が盛んな地域であるが、野菜生産者の経営安定に向け、生産コストの低減が課題となっていた。そこで、この地区に家畜糞由来の良質な堆肥が安価かつ豊富に存在することに着目し、地域で力を入れている雨よけトマトについて、堆肥の活用による生産コスト削減を図ることとした。

普及活動の経過

J A あがつま雨よけトマト生産部会では、トマトを特殊な肥料で栽培することで差別化販売に取り組んできたが、使用する肥料の種類が多く、施用にも手間がかかることが課題となっていた。また、近年ではコストに見合うだけの収益が得られなくなってきたため、トマトから他作物に転換する農家が後を絶たず、生産者数が激減していた。

そこで、産地の再生を図るため、県畜産試験場で開発された「堆肥施肥量計算ソフト」を活用し、堆肥の有効活用による肥料費削減と安定生産に向けた取り組みを強化した。

19年度から基肥を堆肥で栽培する展示圃を設置したところ、トマトの収量、品質が慣行栽培と差がないことがわかったため、現地研修会等を通じ生産者に堆肥の活用を推進した。

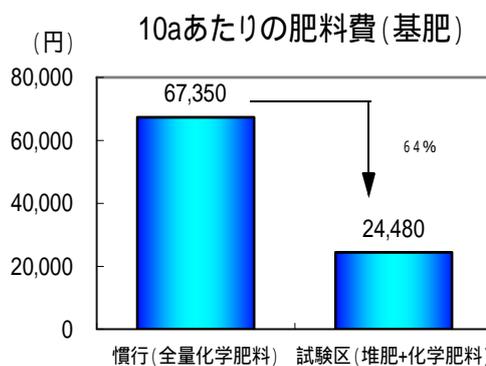


現地指導風景

普及活動の成果

野菜担当と畜産担当の普及指導員の連携の下、堆肥と化学肥料を併用した施肥体系を設計することで、収量が低下することなく、基肥の肥料コストが64%削減されることを確認した。これを受け、20年度は21名の生産者が、21年度はさらに7名（計28名）の生産者が堆肥を基肥に利用する予定である。

また、これら農家に対してアンケート調査を行ったところ、この技術は高く評価され、他作物での活用意欲も高まっている。今後、追肥の量や時期に関する課題について調査研究を進めることとした。



技術のポイント

- ・堆肥の有効活用と堆肥本来の肥料成分を考慮した施肥体系により、化学肥料の使用量とコスト削減が可能である。
- ・堆肥の長期にわたる肥効により、作物の生育が安定する。